

特集 『「2020」からオリンピックのいまを考える』

特集にあたって

関根正美

昨年5月に2020年東京大会は1年の延期が決まった。人々の日常が取り戻せない中で、現状として東京都と政府は大会実施をめざしている。そのことの成否はわからない。だが、今夏の大会実施の是非についての議論の前に検証すべき事柄がある。それが本号の特集である。「2020」年は今年開催されるかもしれないイベントのみを指しているのではなく、過ぎ去ったオリンピック不在の時間から照射された現在までの不可思議な世界を意味している。

少なくともパンデミックのため、オリンピックが2020年に開催されなかった事は事実である。2020年に開催できなかったところから見えてきたオリンピックの諸問題を文化、歴史、思想、社会の観点から分析し、オリンピックの再評価、批判を行うことは、オリンピックが人類の遺産として存続できるかに関わる問題である。

一方で、今回のオリンピック問題から、人間文化、思想、社会の状況をどのように捉えるかの観点も必要であろう。図らずも危機に面した2020年大会は、われわれを取り巻く世界について考察することも可能であると思われる。

2020年不開催からオリンピックの価値をどのように分析し再評価できるのか、あるいは、今回の事態から文化、歴史、思想、社会の状況をどのように抉り出すことが可能なのか。オリンピックの存在そのものと我々の生きる時代状況を考える論考を、今号では3名の方からお寄せいただいた。